

## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
1	鴻巣の文化を子どもたちに伝える取組	<p>○ 少子高齢化社会において、鴻巣に学ぶ子どもたちが「将来も、このまちに住んでいたい」と思えるようにする取組が不可欠である。</p> <p>○ 鴻巣市の名前の由来も知らない子どもが多い。子どもたちが地域を知り愛着をもたずして、人口定着を目指せないのではないか。</p>	<p>&lt;親子・学校で、鴻巣の文化を体験する場の充実化&gt; 働き方改革による余剰時間に期待し、親と子どもが一緒に、文化などに触れる時間に充てるような仕掛けを検討するのはどうか。</p>	④検討課題とする	<p>チャレンジスクールを通じて低学年の小学生が親子と一緒に楽しめる事業を設けています。春・夏・冬の全3回で構成されており、特に夏休みの講義は人気が高く定員を大幅に超える申込みがあります。今後も事業は継続していきますが、鴻巣の文化や歴史に身近に触れられような講義も取り入れることを検討していきます。</p>	生涯学習課
2		<p>○ 地区により、子どもが鴻巣の文化に触れる機会が限られている。結果、「自分たちが文化を作る、担い手になる」意識を持たせる教育が薄いのではないか。</p>	<p>&lt;親子・学校で、鴻巣の文化を体験する場の充実化&gt; 鴻巣に現状ある資源を活用し、親子で体験できるイベントや文化を伝える出前講座の開設を、もっと企画するべきである。 (例)コウノトリ、人形、自然 など</p>	④検討課題とする	<p>チャレンジスクール、子ども大学の事業等により、鴻巣の画家・須田剋太展の鑑賞や鴻巣の自然や歴史に触れる体験学習を取り入れています。 また、出前講座として、現在「さわって学ぼう 鴻巣の歴史」という本物の埴輪に触れられる講座を開設しております。 ご提言を参考に、既存事業の見直しや充実を図り、市への愛着醸成に結び付けてまいります。</p>	生涯学習課
3		<p>○ 親が地域と関わりを持つことで、子は鴻巣の文化を学ぶ機会を得る。「親世代」が鴻巣の文化に触れる機会の創出が不足しているのではないか。</p> <p>○ 教員自体も異動も多いので、中々地域の文化や歴史を良く知る機会に恵まれていないのではないか。(結果、授業などで伝えられないのではないか。)</p>	<p>&lt;親子・学校で、鴻巣の文化を体験する場の充実化&gt; 子どもを外へ引き出すことは、大人も付き添いとして外に出ることに繋がる。結果として、コミュニティ形成も期待できることから、積極的に文化に触れるきっかけを、わかりやすく提供するべきである。 (例)鴻巣版キッズニア(農業体験、文化体験、スポーツ体験などを一カ所で行う) そして、各種イベントに興味を持ってもらえる周知方法の検討に努めるべきである。</p>	④検討課題とする	<p>ご提言を踏まえ、各公民館で現在実施している親子を対象とした事業を充実できるか検討するとともに、周知方法についても新たな手段を検討してまいります。</p>	生涯学習課
4		<p>○ イベントなどの情報伝達が効果的ではないのではないか。</p>	<p>&lt;親子・学校で、鴻巣の文化を体験する場の充実化&gt; 郷土かるたは、文化を知る有効なツールと考える。例えば、親子でかるたに登場する土地へ行き、体感することで文化を理解することができるイベントなどを、企画するべきである。</p>	④検討課題とする	<p>郷土かるたは埼玉の文化・歴史を知る上で重要な教材であり、かるたで登場する土地へ行くことは子ども達にとっても良い体験であると考えます。かるたに登場する土地をすべて回ることは困難と考えますが、テーマを身近な土地に絞ることで、子ども大学やチャレンジスクールの講義に組み込むことは可能とも考えますので、今後の検討課題とさせていただきます。</p>	生涯学習課

## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
5			<p>&lt;教職員向け文化研修の実施&gt; 市の文化を教職員自身が理解し、子どもたちに伝えられるよう、鴻巣に新規に着任する教職員向けのカリキュラムを組むなど、文化面での教職員研修を行うのはどうか。</p>	①既に実施済み	<p>他市から転入してきた教職員対象の転入教員研修、初任者研修の一環として、施設体験研修を実施しています。鴻巣市に着任した教職員が、鴻巣市の魅力を知り、それを子どもたちに伝えられるよう、市内の歴史や産業等に関わる施設の見学や体験を行っています。 今後も、鴻巣市を愛する子どもたちを育てるため、研修内容の一層の充実に努めます。</p>	学校支援課
6			<p>&lt;アクティブシニアの活用&gt; 伝統の継承には、リタイアした方の得意分野(昔から住んでいる人、人形づくりや紙芝居など)を活かすことにより、地域と学校との結びつきもより深くなり、効果的と考えられる。 社会福祉協議会にはボランティアカードによる講師ボランティア登録制度がある。この制度などをもっと活用することが、文化を次世代へ伝える場となることが期待できるので、登録奨励及び結びつきの強化に積極的に関与するべきである。</p>	①既に実施済み	<p>ご提言内容は、特に、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するために行っている、「鴻巣市放課後子ども教室推進事業」の充実等に効果的と考えます。 現在も福祉部局と教育部局の連携は行っておりますが、更に密にし、鴻巣の文化を継承する取組の充実化に努めます。</p>	福祉課 生涯学習課 学校支援課

## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
7	子どもの創造力を伸ばす取組	○ 勉強以外で、「心を育てる」授業を積極的に組む余裕が、学校側(教員)に無いように見受けられる。 であれば、授業に地域の方の知恵を取り入れ、教員も同時に学べる仕組みがあるかといのではないか。	<地域・民間と連携した取組の充実化> 夏休みに教室を活用したサマースクールを実施し、勉強だけでなく、地域の力を借り魅力ある授業に取り組むことを検討するべきである。	①既に実施済み	各学校では、総合的な学習の時間や様々な教育活動の中で地域の方をゲストティーチャーとして招き、生け花や華道などの伝統文化や人形作りなど、魅力ある授業作りに力添えを頂いております。 また、すでに現在夏休みに補充学習や地域の力を借りて体験学習を行っている学校もある中、効果面等を各学校に広めてまいります。	学校支援課
8		○ 相手に意見を述べることを不得手とする日本特有の体質から脱却し、考えを発信できる子どもを育てることが重要である。 子どもたちの創造性が発揮でき、発言力を伸ばす経験ができる環境づくりをもっと充実化させるべきではないか。	<地域・民間と連携した取組の充実化> 幼稚園から中学校までの一貫校を例(新潟県で実例あり)に、官民が連携し異年齢間での交流ができる環境を作ることを検討するべきである。 子育ての疑似体験ができ、情操教育にもつながると考えられる。	⑤現時点では実施しない	平成23年度より、「いきいきと主体的に活動する川里の子どもたち」を研究主題に掲げ、川里中学校区で小中一貫教育推進事業に取り組み、異年齢交流を行ってきました。 ご提言の幼稚園からの一貫教育については、課題も非常に大きいことから、現時点では小中一貫の取組検討を更に進めていきます。	教育総務課
9		○ 「基本事業1):確かな学力の向上」は確かに重要であるが、これからの教育には「より視野の広く、社会を変える意識を持てる教育」が重要だと考えられ、施策にその視点が不足しているのではないか。	<地域・民間と連携した取組の充実化> 余裕教室などは、授業以外の枠組でも、子どもたちを中心に地域・民間が協働して活用できるよう柔軟化させるべきである。	④検討課題とする	市内19小学校の空き教室の活用状況においては、放課後児童クラブや放課後子ども教室として、地域・民間の協働のもと、積極的に活用を講じており、今後も、放課後子ども教室の未設置の学校を中心に、配置できるよう努めます。 一方、近年公的不動産の有効活用の観点で、時間帯等に合った様々な活用事例が出てきていますが、安全・安心した環境を構築することも課題となっており、ご提言を含め、多角的に検証は進めてまいります。	教育総務課 学校支援課
10			<創造力を育む教育の明確化と充実化> 広い視野をもち社会を変える意識を持てる教育ビジョンを、もっと市として明確化するべきである。(≒基本事業化、成果指標などの設定など)	③H32年度以降の着手を目指す	平成32年度から実施される新学習指導要領の改訂にあたっては、子どもたち一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されています。 本市としては、こうした社会の情勢や国、県の教育振興基本計画を踏まえつつ、次期鴻巣市教育振興基本計画(H33～H37)や「第6次鴻巣市総合振興計画 後期基本計画(H34～H38)」の策定の際に、教育ビジョンの明確化について検討してまいります。	学校支援課

## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
11			<p>&lt;創造力を育む教育の明確化と充実化&gt;                      具体的には、グループ討議などのアクティブラーニングの推進が考えられるので、積極的に授業に組み込むべきである。</p>	①既に実施済み	<p>平成29年3月に告示された新学習指導要領では、未来社会を切り開くための資質・能力を育むことを目指し、アクティブラーニングの視点に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。</p> <p>これを受け、本市では、各学校に「学習指導の方針」を示し、授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学びを通じた授業づくりのポイント」等を明示して、授業改善を図っているところです。</p>	学校支援課
12			<p>&lt;創造力を育む教育の明確化と充実化&gt;                      IT社会への対応として、タブレットなどを活用した新しい教育手法を積極的に取り入れるべきである。</p>	③H32年度以降の着手を目指す	<p>タブレット型の学習用コンピュータ数は、全国の小・中・高等学校等において年々増加傾向にあり、今後は、学校内のあらゆる場所、教室等でタブレット型の学習用コンピュータを活用した学習活動が加速的に展開されることが予想されます。</p> <p>平成32年度より順次実施される新学習指導要領を見据え、今後、本市の教育ICT環境整備を進めていくなかで無線LAN等のネットワークの構築やタブレット機器の導入について検討してまいります。</p>	教育総務課

## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
13	親・教員と子どもの関わり方	<p>○ 子ども同士で解決できているような問題に、近年は親・教員が深く介入し、結果として複雑化することも多いように見受けられる。</p> <p>大人が思う以上に子どもは強く、自分の意思を持っていることを認識し、力を発揮できるよう、育てていくことが重要である。</p> <p>○ 一方で、親はPTA(特に会長・役員)による、地域でのサポートの参加には消極的であり、成り手がいない。</p> <p>また、スポーツ少年団などへの入団には、子と親で参加意識に差があり、主体性を妨げる要因になっているのではないかと。(子どもは入団したいが、親の負担が大きくなるため入団しない。)</p> <p>○ 子どもの潜在力を引き出すには様々な体験が不可欠であり、そのきっかけは、やはり親が沢山の情報を取得し、子どもに伝えることで生まれることが多いはずであるが、特に市関連の取組は、魅力面やPRが不足していると感じる。</p> <p>(例:サマーキャンプや講座の情報に触れる場所がなく、知る機会が少ない。)</p> <p>○ 中学校の部活動において、強い指導力のある先生に生徒が偏り、地域差が生まれている。</p> <p>また、指導者が近年不足して実情があり、熱意のある生徒のバックアップ体制が弱まっているのではないかと。</p>	<p>&lt;親をサポートする仕組みづくり&gt;</p> <p>親世代が、自分の子どもだけでなく、様々な子供たちの意思や想いを確認できる場所・聞ける場所を作り、子どもたちの考えをもっと認識する機会を作るべきである。</p> <p>(例:子どもの主張大会)</p>	①既に実施済み	<p>本市では全小・中学校において平成24年度から土曜授業を実施し、保護者や地域の方への公開授業等を推進しております。その中で、道徳の時間や校内音楽会、地域とのふれあい活動等を位置付け、子どもたちの考えや想いを発信し、保護者、地域の方との意思疎通を図る機会としております。</p> <p>また、本市では、市内8中学校から推薦される22人の生徒による「未来議会」を開催しております。この未来議会では、中学生に本市のまちづくりに関する意見・提言を質問形式で発表してもらっております。</p> <p>今後もこのような取組を継続することで、子どもの生の声を聴ける機会を創出してまいります。</p>	学校支援課
14		<p>○ 子どもの潜在力を引き出すには様々な体験が不可欠であり、そのきっかけは、やはり親が沢山の情報を取得し、子どもに伝えることで生まれることが多いはずであるが、特に市関連の取組は、魅力面やPRが不足していると感じる。</p> <p>(例:サマーキャンプや講座の情報に触れる場所がなく、知る機会が少ない。)</p> <p>○ 中学校の部活動において、強い指導力のある先生に生徒が偏り、地域差が生まれている。</p> <p>また、指導者が近年不足して実情があり、熱意のある生徒のバックアップ体制が弱まっているのではないかと。</p>	<p>&lt;親をサポートする仕組みづくり&gt;</p> <p>地域活動やPTA活動への積極的な参加促進を図るためには、ハードルの高い役員の負担を分散化(人数増による一人の役割の軽減)させることを、働きかけるべきである。</p> <p>結果、役員経験者を増やすことで、地域やPTA活動などの重要性を認識してもらうことになり、その後の参加も活性化に繋がると考える。</p>	①既に実施済み	<p>PTA活動においては、一人一役委員による制度を設け、役員の負担を分散化している学校があります。また、PTA連合会が主体となり、1月開催の「教育委員とPTA会長の会」において、複数校から役員選出を踏まえて特色のあるPTA活動について発表していただき、学校間の情報共有を図り負担軽減の参考として頂いています。</p> <p>PTA活動は、子どもたちを支える土台として今後とも重要な組織であり、行政としても積極的な参加促進を図る優れた取組や地域活動、PTA活動の重要性を周知することで、活動の活性化に結びつけてまいります。</p>	学校支援課 生涯学習課
15		<p>○ 中学校の部活動において、強い指導力のある先生に生徒が偏り、地域差が生まれている。</p> <p>また、指導者が近年不足して実情があり、熱意のある生徒のバックアップ体制が弱まっているのではないかと。</p>	<p>&lt;親をサポートする仕組みづくり&gt;</p> <p>親の負担を軽減できるよう、スポーツ少年団の活動を地域でサポートできるような枠組を検討するべきである。</p>	①既に実施済み	<p>スポーツ少年団本部では、子どもの卒団後も継続して単位団の運営に携わってくださる指導者、リーダーの育成に力を入れ、養成講習会を開催しております。各単位団においても課題共有しており、工夫を講じ、負担軽減の取組を既にも実施しております。今後とも、多様な親子が参加しやすい単位団運営について指導、活動に関する情報の集約・提供につとめ、事例研究等も行いながら、子どもたちのやる気を伸ばす活動支援を、行政としても行ってまいります。</p>	スポーツ健康課 学校支援課

## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
16			<p>&lt;親をサポートする仕組みづくり&gt;                      親が情報を取得しやすい様、講座情報を集約した相談窓口があると良い。また、市が独自にイベントの企画をし、他市にはない取組を検討してほしい。                      その際は、リタイア者の知恵を取り入れると良い。</p>	①既に実施済み	<p>情報を取得しやすい様、生涯学習講座情報を集約した情報誌「鴻巣市生涯学習ガイド」を前期及び後期分の年2回発行し、市内の公共施設に設置して市民に講座情報の周知を実施していますが、より周知方法の向上に努めます。</p> <p>講座内容としては、他市にはない取組として、本市が所有する映画館において、映画上映会を実施しています。イベントの企画では、実施内容についてリタイアの方を含めた会議において報告を行い、改善点等の意見を頂いていますが、その他、県や他市の動向を踏まえつつ、より内容の充実化に努めてまいります。</p> <p>一方で、相談窓口の設置については、各課において目的別に様々な講座を実施しているため、説明責任の観点からも、現時点では実施は困難と考えております。</p>	学校支援課 生涯学習課
17			<p>&lt;部活動をサポートする仕組みづくり&gt;                      外部指導者の協力・連携を強化し、他校で練習できる仕組みなどの対策が必要ではないか。</p>	①既に実施済み	<p>本市では、専門的な技術指導や生徒への支援のため、運動部及び文化部を合わせて、平成30年度は、51名の外部指導者を各中学校に配置しております。部顧問、外部指導者の連携により、合同練習等を実施している部活動もあります。また、市長杯等、公式戦以外にも生徒の活躍の場、交流の場を設定しています。新たな仕組みづくりについては、学校とも連携しながら検討してまいります。</p>	学校支援課
18			<p>&lt;部活動をサポートする仕組みづくり&gt;                      部活動へ地域の力(外部指導者)を積極的に取り入れてはどうか。</p>	①既に実施済み	<p>本市では、専門的な技術指導や生徒への支援のため、外部指導者を各中学校に配置しております。外部指導者の設置により、地域の優れた教育力を生徒への支援に有効に活用することで、部活動担当教員の指導力の向上や負担軽減につながっているものと捉えております。今後も、引き続き、部活動外部指導者の活用に努めてまいります。</p>	学校支援課

## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
19	研修成果の効果的な活用	<p>○ 研修や研究会による教員のスキルアップは、学ぶべき分野が多様化する社会背景からも、今後もっと重要性が高くなると考えられる。</p> <p>○ 「研修や研究会での成果を教育活動に積極的に反映させていると回答した学校の割合」が48.2%から63.0%へ大きく向上している点は評価できるが、この数字を維持・向上させるために、研修成果の横展開や発表の機会の創出が必要である。</p> <p>○ また、教員の意欲が授業力の向上にも繋がるものだが、意欲を高める工夫が足りないのではないか。</p>	<p>&lt;研修制度の充実化、教員間での研修成果の共有化&gt; 研修で得た知識、経験を次のステップへ活かす仕組みをしっかりと構築するべきである。 特に、受験のための教育に関する研修・知識だけでなく、例えば英語以外の外国語などが学べる場を提供するなどの、行動が伴う教育を推進するべきである。</p>	①既に実施済み	<p>現在、各校において、口頭または文書で研修報告をすることで教員間での研修内容の共有化を図っております。また、特に専門性の高い研修においては、研修で学んだことを校内で実践することが必修となっております。さらに研修修了後は、市や県での研修会の指導者として、市及び県内の教職員に広めるなど、研修等で得た知識等を地域に還元する体制は整備されております。</p> <p>また、埼玉県立総合教育センターにおいて、各教科・領域にわたって、実践的な内容の研修が実施されております。これらの研修等を紹介しながら、教職員が必要感をもって、より主体的に研修に取り組めるよう努めてまいります。</p>	学校支援課
20			<p>&lt;研修制度の充実化、教員間での研修成果の共有化&gt; 教員間でのコミュニケーションを活発化させることで、研修成果の情報共有を図るべきである。</p>	①既に実施済み	<p>各校の校内組織には、教科・領域等様々な部会が設けられ、教科指導、学級指導、生徒指導等について、教員間で話し合う機会は多く設定されております。その中で、効果的な指導技術についての情報共有、また指導方法についての意見交換及び検討も行ってまいります。このような体制の中で、研修成果の共有化を図っております。</p> <p>今後も、教員間でのコミュニケーションの場が、研修成果の共有化を図る上で重要な機会であることを各校に伝えてまいります。</p>	学校支援課
21			<p>&lt;親に向けた研修成果の披露&gt; 教員が研修を受講して得たスキルが、どのように生徒に活かされているのかを、親に学校だよりなどで周知するべきである。</p>	①既に実施済み	<p>各校では、学校課題研究や研究発表会の様子やその成果等を、学校だよりやホームページに掲載し、保護者へ周知しております。</p> <p>今後も、各種研修により得たスキル等が、どのように児童生徒に活かされているかという点を、保護者に分かりやすく伝えるように、各校に呼びかけてまいります。</p>	学校支援課

## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
22	心の教育の充実化	<p>○ 基本事業2「心の教育の推進」にあたり、近年、虐待に端を発する痛ましい事件が多くみられているなど、本基本事業はもっと重要視してよいと考える。</p> <p>○ 命の大切さを学ぶ方策の実践として、「花のまちこうのす」なのだから、花と触れる・花を慈しむ事業は効果的と考えられるのだが、駅前通りにも花がなく「花のまちこうのす」を活かせていないのではないか。</p> <p>様々な生物と触れ合う機会をもっと増やすべきではないか。</p> <p>○ 虐待問題の根幹として、虐待の事実を伝えることより、子育ての成功をイメージできる教育が必要と考えられるが、その取組がまだまだ足りていない実感がある。</p> <p>特に、虐待をする親を生み出さないために、親になる前に命の大切さを伝えることが必要である。</p>	<p>&lt;花・緑などを活用した命を学ぶ事業の推進&gt; 義務教育において、命について考える授業を、積極的に取り入れるべきである。</p>	①既に実施済み	<p>学校の様々な教育活動の中で、植物や生き物を育てる活動等に触れる機会を設けております。また、他課の事業である「命の授業」の出前授業や特別の教科道徳の授業を通して、命の大切さについて考える機会を設けております。今後も引き続き、体験活動等を通して、命の大切さについて考える機会が充実するよう努めてまいります。</p>	学校支援課
23		<p>○ 虐待問題の根幹として、虐待の事実を伝えることより、子育ての成功をイメージできる教育が必要と考えられるが、その取組がまだまだ足りていない実感がある。</p> <p>特に、虐待をする親を生み出さないために、親になる前に命の大切さを伝えることが必要である。</p>	<p>&lt;花・緑などを活用した命を学ぶ事業の推進&gt; 様々な場で花に触れることができるよう、花壇環境整備を行うべきである。また、校庭の芝生化を、更に推進されたい。</p> <p>その際、植栽管理・芝刈り・水やりなど、卒業した中学生やOBなどが行うことで、ボランティア精神や学びの場としても活用するのはどうか。</p>	①既に実施済み	<p>本市では「花いっぱい運動」として、草花を大切に育てる活動を通して、児童生徒に自然や植物に親しみを感じさせ情操を養う取組を行っております。また、この取組は学校ボランティア等を活用し、学校と保護者、地域の方との交流を図ることも目的としております。</p> <p>ご提言の卒業生等の参加促進も、このような取組を通じ、生徒と地域の方との直接的な関わりから生まれていくものと考えており、今後とも連携強化の上、推進に努めます。</p>	学校支援課
24		<p>○ ネグレクト(育児放棄)の家庭では、子どもは朝食を食わずに学校へ行く実態がある。</p>	<p>&lt;花・緑などを活用した命を学ぶ事業の推進&gt; 校内での小動物の飼育を、積極的に推進するべきある。経費は、学校の資源回収で資金をつくり、小屋は大工が得意な地域の人などを活用すれば、上手く進むのではないか。</p>	①既に実施済み	<p>本市の多くの学校で、ウサギ、烏骨鶏、魚等の小動物を飼育しております。また、それらの小動物の世話は、教員の指導のもとに児童生徒が中心に行い、命を学ぶ教育の一環としております。また、学校によっては地域の方の協力を得て、その世話等にもあたっております。</p> <p>今後もこのような取組を継続してまいります。</p>	学校支援課
25		<p>○ ネグレクト(育児放棄)の家庭では、子どもは朝食を食わずに学校へ行く実態がある。</p>	<p>&lt;花・緑などを活用した命を学ぶ事業の推進&gt; 給食に地産のメニューがあると思うが、栽培地への社会科見学を通じた、食べ物の有難さを学ばせることが出来ると、心の教育にもよいのではないか。</p> <p>そのためにも地産地消の給食メニューをもっと増やし、生産者との関わりを深めることも重要である。</p>	③H32年度以降の着手を目指す	<p>栽培地への社会科見学については、食に関わる方への感謝の心を育むためにも、効果的と考えます。</p> <p>また、地産地消の給食についても、経費と折り合いながら少しずつ増やしております。</p> <p>ご提言を、学校側にも提案し、実現に向けた検討を進めてまいります。</p>	学校支援課



## まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策3:教育・文化に関する政策～子どもから大人まで、生涯にわたる学びと文化が根付くまちづくり～

施策1:学校教育の充実

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
26			<p>&lt;教育の場での、子どもの心に寄り添う事業の実践&gt;                      学力以外の情報(個性や過去のいじめ問題など)を、小学校から中学校へ連携し、未然防止に努めるべきである。</p>	①既に実施済み	<p>本市では、全小・中学校の生徒指導主任を出席者とする「鴻巣市生徒指導委員会」を実施し、いじめなどを含む各学校の生徒指導上の諸問題等の情報共有を行っております。また、全小・中学校の教育相談担当者とする「教育相談担当者・さわやか相談員等連絡協議会」も実施し、教育相談的な視点から児童生徒の個性などを尊重した、情報共有を行っております。さらに、中学校区の小学校及び中学校の教職員による「小・中学校合同研修会」及び、6年生の担任教諭と中学校教諭による「情報交換会」等を行い、小中の円滑な接続のための情報伝達、共有を行っております。</p> <p>このような機会を利用し、小・中の情報の連携及び情報の共有を通し、いじめ等の未然防止に努めております。今後も継続するとともに、県が主催する協議会等も活用しながら、今後も未然防止に努めてまいります。</p>	学校支援課
27			<p>&lt;教育の場での、子どもの心に寄り添う事業の実践&gt;                      学校に朝食を食べて来られない児童生徒に対する救済措置として、軽食を提供できるような制度を検討するのはどうか。</p>	⑤現時点では実施しない	<p>児童生徒の朝食の摂取については、実態把握と家庭への呼びかけを行うよう、今後も市体力向上推進委員会を通じて、各学校へ働きかけてまいります。</p> <p>なお、軽食を提供できるような制度については、実現への課題も多くあり、現状の実態からも時期尚早と考えています。</p>	学校支援課
28	施策全体に対する意見		<p>&lt;通学路の安全対策&gt;                      通学路の一斉見直しを要望したい。危険箇所を再確認し、災害時にも安全に通ることのできる別ルートを検討するなど、未然防止に努められたい。</p>	①既に実施済み	<p>通学路については、毎年各学校において見直しを実施していますが、今年度においては、小学校の通学路を中心に、危険なブロック塀の点検、防犯の観点から見た危険箇所の点検を実施いたしました。</p> <p>各学校では、日頃より、児童生徒への繰り返しの安全指導及び危機回避能力の育成等、事故防止の徹底に努めており、今後ともご提言も踏まえた対応を実施してまいります。</p>	教育総務課 学校支援課